第２ 【事業の状況】

１ 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間（平成19年10月１日～平成20年３月31日）におけるわが国経済は、前半は緩やかな景気回復基調が続いていたものの、後半に入り設備投資や生産が増加から横ばいに転ずるなど、景気回復は足踏みが見られる状態となってまいりました。

情報通信業界におきましては、企業のソフトウェア投資はおおむね横ばいで推移しているものの、情報サービス業の売上高は前年同期（平成18年10月１日～平成19年３月31日）と比べ増加傾向にあり、今後のソフトウェア・情報サービス需要についても、先行きは比較的良好と言える状況となっております。また、ブロードバンド化を含め、インターネット環境の普及が着実に進展しております。特に携帯電話につきましては、当中間連結会計期間末（平成20年３月末）にはインターネット接続の契約数が8,800万件を超える等、インターネット端末として広く浸透しております。

当社グループにおきましても、携帯電話向けに提供いたしております「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」の検索回数は平成20年３月には月間１億1,000万回を超える等、インターネットでの更なる事業展開の基盤を確立してまいりました。

このような環境の中で、当中間連結会計期間における当社グループの売上高は1,540,478千円（前年同期比7.5％増）、営業利益は302,272千円（前年同期比12.5％減）、経常利益は303,439千円（前年同期比12.4％減）、中間純利益は159,755千円（前年同期比14.0％減）という経営成績となりました。

売上高につきましては、主として、乗換案内事業セグメントにおける売上高が1,428,615千円（前年同期比11.5％増）と順調に推移したことの影響が、それ以外のセグメントにおける売上高の減少の影響を上回ったことにより、前年同期と比べやや増加いたしました。また、営業利益につきましては、乗換案内事業セグメントにおいては前年同期と比べ増加しておりますが、それ以外のセグメントにおいては利益の減少・損失の拡大となり、全体としては前年同期と比べ減少いたしました。これにより経常利益及び中間純利益につきましても、前年同期と比べ減少いたしております。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

（乗換案内事業）

乗換案内事業は全体として、売上高・営業利益ともに順調な推移となりました。

携帯電話向けの事業につきましては、携帯電話向け有料サービスである「乗換案内NEXT」は順調に会員数が増加しており、前年同期末（平成19年３月末）には約46.3万人でありましたが、当中間連結会計期間末（平成20年３月末）には約53.7万人となっております。その結果、売上高も前年同期と比べ大きく増加しております。また、広告につきましては、携帯電話向け無料版「乗換案内」へのアクセスは増加しておりますが、クライアントの獲得が伸び悩み、売上高は減少しております。

「乗換案内」のパソコン向け製品につきましては、前年同期と比べ売上高が減少いたしております。これは主に、顧客との直接契約によるバージョンアップの販売が減少しているためであります。

「乗換案内イントラネット3PLUS」等の法人向け製品の売上高につきましては、前年同期と比べ増加しております。これは主に、大型案件の売上が増加したことに加え、新製品の「乗換案内.NET

XML Edition」「乗換案内道路ナビ」の売上増加によるものであります。

旅行関連事業に関しましては、パソコン向けインターネット版「乗換案内」、並びに携帯電話向け「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」の利用者等に対して、旅行商品の販売を実施しており、売上高は前年同期と比べ大きく増加しております。

以上の結果、売上高1,428,615千円（前年同期比11.5％増）、営業利益537,113千円（前年同期比10.0％増）となりました。

（マルチメディア事業）

マルチメディア事業では、従来から携帯電話向けゲーム「ハムスター倶楽部」等の提供を行っており、その売上高は前年同期と比べやや減少しております。また、新たに、家庭用ゲームソフトの発売を行っております。その他に、映像コンテンツの提供等につきましては事業の見直しを行い、新しいコンセプトの映像コンテンツを提供しております。

当中間連結会計期間においては、ニンテンドーDS向けゲームソフト「THE営業道」及び３ＤＣＧ音楽アニメーションＤＶＤ「アニミュージック２」の販売を開始いたしました。しかし、当中間連結会計期間においては費用が先行して発生している状態が続いており、全体として利益の獲得には至っておりません。

以上の結果、売上高32,281千円（前年同期比24.7％減）、営業損失110,583千円（前年同期は58,818千円の損失）となりました。

（その他）

受託ソフトウェア開発及び情報関連機器リース等につきましては、ソフトウェア開発の売上が伸び悩み、前年同期と比べ売上高が減少していることから、営業損失が発生しております。

以上の結果、売上高87,566千円（前年同期比25.4％減）、営業損失6,375千円（前年同期は23,108千円の利益）となりました。

なお、上記の事業の種類別セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、営業利益は、配賦不能営業費用及び内部取引による営業費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における連結ベースの現金および現金同等物は、前連結会計年度末と比べ97,895千円増の1,351,236千円となりました。

当中間連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは186,457千円の収入（前年同期比10.5％増）となりました。前年同期と比べての変動の要因は、税金等調整前中間純利益が39,799千円減の304,186千円、減価償却費が12,068千円減の34,606千円、法人税等の支払額が29,589千円増の168,221千円となった一方、売上債権の減少額が58,822千円増の6,936千円、仕入債務の増加額が30,789千円増の39,883千円、未払費用の増加額が26,501千円増の13,064千円となったこと等であります。減価償却費が減った主要因は無形固定資産のその他に含まれる映像コンテンツの減価償却費が減少していること等であります。法人税の

支払額が増えた主要因は、前連結会計年度の利益額が、それ以前に比べ増加したこと等であります。売上債権の減少額が増えた主要因は、前年同期における一期前と比較した中間期末直前の売上高は大きく増加しているのに対し、当中間連結会計期間におけるそれは少し減少していること等であります。仕入債務の増加額及び未払費用の増加額が増えた主要因は、前年同期における一期前と比較した中間期末直前の営業費用の増加額と比べ、当中間連結会計期間におけるそれの増加額が増えていること等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは34,407千円の支出（前年同期比90.1％減）となりました。前年同期と比べての変動の要因は、連結子会社株式の追加取得による支出が11,892千円増の13,894千円となった一方、定期預金の払戻による収入が317,803千円増の327,803千円となったこと等であります。なお、定期預金の払戻による収入及び定期預金の預入による支出のうち、310,000千円は満期による払戻及び再預入によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは52,321千円の支出（前年同期比32.2％増）となりました。前年同期と比べての変動の要因は、前年同期にはなかった短期借入金の返済による支出11,000千円が発生したこと、配当金の支払額が5,532千円増の36,323千円となったこと等によるものであります。配当金の支払額については、１株当たり配当金を平成18年９月期の６円から平成19年９月期には７円としたこと等により増加しております。

２ 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
乗換案内事業	952,786	＋0.6
マルチメディア事業	47,059	＋68.8
その他	62,641	△30.1
合計	1,062,488	△0.2

(注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 セグメント間取引については相殺消去しております。

(2) 受注実績

当中間連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
乗換案内事業	77,925	＋55.7	58,597	＋15.3
マルチメディア事業	54	△99.2	―	―
その他	104,794	＋30.8	76,874	＋11.8
合計	182,775	＋33.7	135,471	＋13.3

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 セグメント間取引については相殺消去しております。
3 受託開発等以外の製品については見込生産を行っております。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
乗換案内事業	1,428,179	＋11.5
マルチメディア事業	32,281	△24.7
その他	80,016	△26.7
合計	1,540,478	＋7.5

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 セグメント間取引については相殺消去しております。

３ 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

４ 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

５ 【研究開発活動】

当社グループは、技術革新、業界標準及び顧客ニーズの変化、新技術及び新サービスの登場等が激しいＩＴ業界において、主に事業を展開しております。その中で、新しい技術への対応を行い、競争力を確保するため、的確かつ効率的な研究開発活動を経常的に行うよう努めております。

当中間連結会計期間の研究開発活動は主に、開発部、メディア事業部及びゼストプロにて行ってまいりました。さらに、シナジー効果の活用を図るため、必要に応じプロジェクトチームを編成し、研究開発活動を行ってまいりました。その結果、一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、51,101千円となりました。

事業の種類別セグメントの研究開発活動を示すと、次のとおりであります。

（乗換案内事業）

主に「乗換案内」の各プラットフォーム向け製品・サービスについての研究開発を行ってまいりました。

まず、携帯電話向けの「乗換案内」について、携帯電話のアプリケーションについての研究開発を行ってまいりました。当中間連結会計期間においてはｉモード版及びＥＺウェブ版「乗換案内NEXT」上において、「乗換検索アプリ」、「乗換アプリ時刻表」、「乗換地図アプリ」の機能を統合し、「乗換案内アプリ」として提供を開始いたしました。

法人向けの「乗換案内」については、XML対応の「乗換案内.NET XML Edition」について研究開発を行い、大幅な機能強化を進めてまいりました。さらに、新たなラインナップの拡充に向け、研究開発を続けております。

また、パソコン向けインターネットの無料版「乗換案内」を含むジョルダン（ホームページ）については、前連結会計年度より検索サービスの機能強化等を含めた大幅なリニューアルに向け研究開発を行い、β版として試験運用を行ってまいりましたが、当中間連結会計期間において正式に運用を開始いたしました。

その他にも、乗換案内等に付随する製品・サービスに関わる研究開発を行っております。

上記の研究開発活動等の結果、乗換案内事業セグメントにおける研究開発費は10,121千円となりました。

（マルチメディア事業）

主に家庭用ゲームソフトについて開発を行ってまいりました。当中間連結会計期間においてはニンテンドーDS向けに「THE営業道」の１タイトルについて製品化に至っております。

また、電子書籍向けに新しいサービスの開始に向けて研究開発を行っております。

上記の研究開発活動等の結果、マルチメディア事業セグメントにおける研究開発費は38,806千円となりました。

（その他）

主に、USBメモリを新しいアプリケーションプラットフォームとして利用できる機能の提供に向け研究開発を行ってまいりました。

上記の研究開発活動等の結果、その他セグメントにおける研究開発費は2,172千円となりました。